

令和4年度 学校経営報告書（自己評価）

学校名	富士市立高等学校	校長名	櫻井 祥行
-----	----------	-----	-------

評価	基準	評価	基準
A	十分目標を達成することができた	C	あまり目標を達成することができなかった
B	おおむね目標を達成することができた	D	ほとんど目標を達成することができなかった

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	成果と課題
ア	生活習慣の確立	・朝読書の遅刻者延べ数各学年120人以内	12月21日現在現在 遅刻延べ人数 1年：183人 2年：189人 3年：84人	教務 情報管理 保健環境 学年 B	朝読書は、大切な活動のひとつである。生活習慣を確立するためにも粘り強く指導していく必要がある。昨年総数529人今年456人。
ア	学校の安全安心	・自転車安全指導カード（年間50件以内）、自転車事故件数（昨年度より減）	自転車安全指導カード（196→33件） 自転車事故件数（15→11件）	生徒 B	継続的な交通指導や生命のメッセージ展による啓発活動により、指導カード・事故件数は減少したが、地域からの苦情はなくならなかった。
		・情報交換会を毎週1回実施	令和5年1月末現在で24回開催	教育相談 A	生徒情報をオンタイムで共有できた。また、その場を使ってケース会議を開くこともできた。
		・学年別に実施する保健講座後の意識向上率20%	1年：性に関するアンケートより 2年：人間関係作り 3年：卒業に当たり（2月予定）	保健環境 B	1年生の意識向上があまり見られなかった。問題を自分事ととらえる割合が低くもっと時間をかけて考えさせる必要がある。
		・「学校に困ったことや悩み事を相談できる人がいる」生徒85%	全体 89.8% 1年 83.9 2年 90.5 3年 95.2	教育相談 A	「困った時には大人に相談」保健講座を中心に訴え続けたのがよかった。継続したい。
		・いじめを理由とする不登校転退学者ゼロ ・体罰ゼロ	・いじめを理由とする不登校転退学者数0人 いじめ ゼロ 体罰 ゼロ	教頭 教務 教育相談 A	生徒からの相談に対して迅速に丁寧に対応した。今後もしじめ、体罰撲滅に向けて絶えず呼びかけを行う必要がある。
		・面接週間を年2回以上実施	1、2学期開始時に設定	教育相談 A	年度替わり、長期休み明けという時期に生徒の変化を見ることができた

様式第3号

ア	職員の健康増進	・午後8時以降に残留する職員の減少	週3日以上午後8時以降残留することはない。83.6%で昨年度より1.1%改善	管理職 B	業務の見直しと効率化を今後さらに進める必要がある。
ア	学校未来プロジェクトの推進	・「学校行事・部活動に満足している」生徒90%	学校行事 89.8% (1年91.0%, 2年94.0%, 3年84.7%) 部活動 87.6% (1年87.7%, 2年84.5%, 3年90.4%)	教頭 生徒 学科 学年 部活動活性化 A	総合カルチャー部の新設により、横断的な活動が実現し、文化部の活動が活性化された。
		・海外探究代替研修の充実(生徒の満足度90%)	総合探究科 96% ビジネス探究科 100% スポーツ探究科 100%	学科 学年 A	初めての国内探究研修であったが、事前の研修を十分に行うことで学科の特徴を生かした探究を実践した。
イ	生徒の自主性・協調性及び目標に向かって挑戦する意欲と態度を育む	・「自分の将来に対する、はっきりとした夢や希望を持っている」3年生徒80%	生徒アンケート結果 84.2%	キャリア 学科 学年 A	進路指導を通じて、正しいキャリア意識の育成を図る。
		・「学校での学びをきっかけに、さらに学びたいと思う」生徒60%	生徒アンケート結果 1年69.7% 2年62.5% 3年78.9% 全体70.5%	企画研究 学科 学年 A	経年変化を見てみると 3年生 50.0%→59.3%→78.9% 2年生 54.4%→62.5% と学年が上がるごとにポイントが上昇している。このことから本校での教育効果が確認できる。
イ	高い志のもと進路実現のための進路啓発及び実績の向上	・1年生への進路啓発行事年2回以上	キャリア講演会や分野別研究、卒業生講話等、進路を考える機会を増やすことができた。	キャリア 学科 学年 A	コロナ禍ではあるものの、体験授業や講話等を積極的に行う。普段の授業や学級活動においても進路を意識させる。
		・進学(四大100名以上)及び就職内定率(100%)	12月末日 現在86名 1名は体調面を考慮し就職せず。	キャリア 学年 B	総合型選抜や学校推薦型選抜に加え、一般選抜で国公立大学を狙える生徒を育てていく。
		・簿記検定1級取得率80%	簿記検定取得率 1級会計 57% 1級原価計算 40% 全商検定1級3種目以上合格2人	商業科 B	2年次の全商簿記検定前後に休校期間があったため、合格率が例年に比べて大きく低下した。
		・英語資格・検定試験の準2級以上の受験者150人、合格率40%	受験者数77人 合格率については、41.6%であった。	英語科 B	目標にした合格率を上回ることはできたが、受験者数が上がらなかった。引き続き検定を意識させるよう指導を続ける。

様式第3号

ウ	学習習慣の確立	・週に5日以上、家で勉強している生徒60%	1年：35.9% 2年：45.5% 3年：49.8%	教務 学年 C	学校全体で44.7%。各教科で家庭学習につながる授業や課題等を工夫する必要がある。
		・平均90分以上家庭学習を行う生徒、各学年50%以上	1年：20% 2年：32% 3年：48%	教務 学年 C	家庭学習時間を毎日クラスシーで調査し、個々の生徒への声掛け等を行ったが、目標を達成することができなかった。
ウ	魅力ある授業実践と授業力向上	・70%以上の生徒が「授業に満足している」と答えた教員80%以上	授業アンケートの結果 R2 94.1% R3 97.0% R4 91.3%	企画研究 教務 A	授業に関する詳細な質問については「先生は熱意をもって授業を行ってくれる」「説明は組立や例示、図表の使用などが工夫されていてわかりやすい」といった項目の評価が高かった。
		・「ユニバーサルデザインを意識した教室環境や教材を工夫・改善している」教員70%	学校評価アンケートユニバーサルデザインを意識した教室環境や教材を工夫改善している。 R3:53.7%→R4:70.5%	教育相談 教務 B	各教員の工夫・改善により取り組みが進んでいる。
		・新教育課程の見直し	新1年生の教育課程が進み、シラバス、観点別成績評価等取り組みが進んでいる。	教務 B	取り組みの状況を踏まえて、新教育課程の課題等をまとめ、見直していく。
		・「課題解決の道筋を予測し、課題を解決するための計画を立てることができる」生徒75%	生徒アンケートの結果 R1 75.7% R2 85.0% R3 78.5% R4 83.2%	企画研究 指導主事 学年 A	探究学習において、「論理的な道筋の予測」はディベート、「課題解決のための計画」は市役所プランで主に扱っている。毎年、目標を達成できている。
		・探究学習（「ディベート」「市役所プラン」「自分スピーチ」及び教科「探究」）の充実（	毎週行われる会議で授業内容を見直した。授業での活動成果を究タイム発表会などで発表した。	企画研究 指導主事 学年 A	会議を行うことで、授業内容の改善ができた。多くの生徒が課題を見つけ、情報を収集してまとめるスキルを身につけ、主体的に探究学習に取り組むことができた。
エ	家庭・PTA組織・中学校・地域との連携	・学年学科別懇談会の出席率70%（注）	コロナ禍ではあったがオンラインも併用して5回実施した。出席率は約20%だった。	総務 B	共働きで保護者の価値観が多様化して出席が難しいこと、学校行事等で保護者が来校する機会も確保されていること、保護者・教職員双方の負担も多いため、来年度からは総会のなかに懇談会を組み込んで実施する予定である。
		・「本校が地域に開かれた学校と感じる」保護者85%	保護者アンケート 1年77.8% 2年83.4% 3年87.2%	教頭 地域交流 A	地域交流について、今後も広報活動を積極的に行いたい。

様式第3号

		・地域交流の実績 40 回以上	「多世代交流サッカー」13 回実施、「人工芝で遊ぼう」2 回実施「学校 De 遊ぼう、学ぼう」1 回実施、1 回実施予定「Def キッズサッカー教室」4 回実施	地域交流 A	「多世代交流サッカー」大人 163 人子ども 198 人計 361 人参加(12 月末現在)「人工芝で遊ぼう」一般親子 115 組計 230 人参加。ひな保育園 80 人参加。「高校 De ブカツ体験」小学生 14 名参加。
		・「学校運営協議会の提言が学校運営に反映されている」と回答する委員 90%	協議会後に委員アンケートを実施予定。	副校長 指導主事 A	委員アンケートにより 89%
		・HP 更新週 2 回以上	ほぼ毎日、授業、行事、部活動の活動等を投稿	教頭 情報管理 A	月平均 8,500 件のアクセスがあった。
		・学校見学会アンケート満足度 80%以上	13 回の学校見学会に中学生 172 人が参加し、満足度 94%	教頭 A	施設や探究学習。部活動が公表であった。参加者は昨年から 46 人増加。
		・中学校への説明会での若手教員の活用	14 中学校での説明会に参加し、若手教員による探究の授業体験を実施した。	副校長 A	学校説明+体験授業(探究)で実施し、好評であった。
エ	家庭・PTA 組織・中学校・地域との連携	・体育館・グラウンドの一般開放年間 200 日以上	4~12 月 体育館：239 日 グラウンド：263 日	事務 A	新型コロナ感染症による施設開放の中止がなく、通年で開放できた。
		・庭球場の一般開放年間 90 日以上	4~12 月 庭球場：195 日	事務 A	新型コロナ感染症による施設開放の中止がなく、通年で開放できた。
オ	適正な事務の執行	・1 月末現在のスクールバス利用者 60 人	一日の最高利用者 大淵・厚原線：25 人 富士南・中央線：13 人	事務 制度変更のため評価なし	9 月以降、運行形態の見直しにより利用料を無料とし、誰でも利用できるよう制度変更したが、利用者の増加は認められなかった。5 年度以降スクールバス事業は縮小していく。
		・食堂利用者の満足度 80%	味の満足度：92.4% 料の満足度：92.4% 価格の満足度：92.4%	事務 A	4 月から食堂の運営業者が代わり、(株)ホーユーが運営している。前年度に比べると各満足度が 10%程度上昇している。
		・電気使用量を前年度比減	4~12 月：515,543kwh 前年度比 35,698kwh の増 ※3 年度 479,845kwh	事務 B	施設開放の中止がなかったことが増加要因とみられる。電気代が高騰しており、エアコンの温度調整や不要な照明の消灯など節電意識を高める必要がある。
		・コピー機の利用枚数を前年度比減	A4 換算で 4~12 月：1,529,275 枚 前年度比-44,250 枚 ※3 年度：1,573,625 枚	事務 A	ここ数年、継続してコピー用紙の削減目標は達成できている。1 人 1 台端末をはじめとしたデジタル化の推進により更なる削減が見込める。

様式第3号